

どうぶつこうえんニコース



千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

No.70

2008

冬

ヒロハシサギの人工飼育



ヒロハシサギは、中央アメリカの河川沿いの森林に生息し、夜間採食習性に適応した大きな目と独特の形をした幅の広い嘴が、とても特徴的な鳥です。

野生の食べ物は、水辺で小魚、エビや昆虫、カエル、鳥などの水生動物を食べていますが飼育下では、ワカサギ

・小アジなどを与えています。

日本の動物園では、現在3園館しか飼育していないほど見かけない鳥です。当園では、鳥類・水系ゾーンのトキ舎でショウジョウトキ、アフリカヘラサギ、トモエガモ、ホオジロガモと同居し、その中でもおとなしい性格ですが怒ると冠羽を逆立て、口を大きく開けて鳴きながら威嚇します。今までに混合飼育の中で自然繁殖もしましたが、短期間でした。そのほかにも人工孵化させ、親に戻したりして自然繁殖を試みましたが、うまく育つことがありませんでした。

2008年より非公開の鳥類放飼施設に単独で飼育するために1ペアを移動し、施設にもなれてきて産卵しましたが、人や物音等に敏感に反応するようになり、抱卵を途中でやめてしまうことがしばしば見られたので採卵し、温度37.5℃、湿度60%に設定した孵卵器に入れたところ、卵がふ化しました。

2008年7月30日の朝、嘴打ち（はしうち）を確認したのですが31日の朝も昨日と変わらないので殻に少しヒビを入れて、さらに昼ごろ中が乾いてきているので少し殻を割ってみました。最終的に夕方、殻の中の皮が乾いているのでむいて孵化させました。

孵化1日目の雛は、体重25.1gで孵卵器より温度34.0℃、湿度60%に設定した哺育器を育雛箱として使用し、成長に伴い温度を下げていきました。初期飼料には、コイのミンチに水を添加したものを使用しましたが給餌量が増加するにつれ、ミンチと切り身を使用し、その後、親鳥と同じ、ワカサギ・豆アジに切り替えていきました。給餌の際には、その前後に体重測定を行い給餌量を計測し、1日の給餌量は、体重と雛の食べる様子を見ながら調整していきました。最初の段階では、手乗りインコ用の給餌器を用いて少量ずつゆっくり与え、給餌内容も与え方も成長経過を見ながら変更していきました。

給餌回数は、1～4日齢の間は1日4回、5～18日齢は1日3回とし、19～24日齢は1日2回で、25～30日齢は1日1回とバットに入れ給餌し、それ以降は、バット入れで与えました。採食する時は、餌を嘴（くちばし）で挟むと嘴を上げて、飲み込んで食べていきました。

2008年7月31日孵化した雛を8月26日より鳥類・水系ゾーンのトキ舎予備室で展示しています。

これからは、自然繁殖できるように落ち着ける環境を整えてあげたいことや人工孵化・育雛も並行して行い、今後、更なる向上に努めたいと思っています。

石井 信一 (Shinichi Ishii)

目次

CONTENTS

表紙【アジアスイギュウ】	①
トピックス【ヒロハシサギの人工飼育】	②
ザ・フラミンゴ	③
牛の話	④
サポーターズデイ	⑤
動物公園の植物③【コナラ】	⑥
飼育よもやま話【チンパンジー】	⑥
動物公園日誌から【'08.7/1～'08.9/30】	⑦
裏表紙【オシドリ】	⑧
サポーター会員募集のお知らせ	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 アジアスイギュウ

アジアスイギュウは、今から4500年前にはインドや東南アジアで家畜として飼われていたと考えられています。

家畜種としては、28品種が知られています。日本で飼育されている水牛の起源は1933年に台湾からの移住民によってもたらされたものであり、水田や畑の開墾に威力を発揮し、牛や馬より作業効率がよいと高く評価されました。1970年代まで沖縄地方では、たくさん飼育されていましたが、2000年代に入ると飼育頭数は、100頭ほどになってしまいました。動物園でも飼育する園館が少なくなり、当園でも雌1頭だけの飼育です。数年前から雄個体を探しているのですがなかなか見つかりません。

希少動物の保護増殖はもちろん動物園の大切な仕事のひとつですが、日本在来の家畜も絶滅に瀕している品種があります。アジアスイギュウは、日本在来家畜ではありませんが、やはり種の保存という観点からすると動物園として今後大いにかかわりを持っていかなければいけないと思います。

小林 正典 (Masanori Kobayashi)

撮影：宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)

動物飼育数

平成20年9月末現在の飼育数

Classified number of animals
as of 30.Sep.2008

哺乳類	66種	446点	両生類	1種	2点
鳥類	75種	316点	魚類	1種	2点
爬虫類	6種	30点	総計	149種	796点

ザ・フラミンゴ

フラミンゴは、ダチョウやペンギンなど、皆さんがわりとよく知っている鳥の1種だと思います。今回は、もっとよくフラミンゴを知ってもらいたいと思います。

フラミンゴは、世界に5種います。そのうちの1種は、2亜種に分かれています。このうち当園では、ベニイロフラミンゴを14羽、チリーフラミンゴを17羽、コフラミンゴを15羽、3種を計46羽飼育しています。そこで、3種類の簡単な見分け方を説明します。

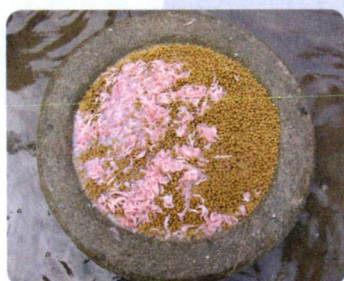
ベニイロフラミンゴは、名の通り体全身が鮮やかな紅色をしています。体も一番大きく、大きさは130cmぐらいあります。くちばしの先端は黒く、付け根は体と同じく紅色をしています。アメリカのフロリダ半島、中南米のカリブ海、沿岸や島々、ガラパゴス諸島に生息しています。



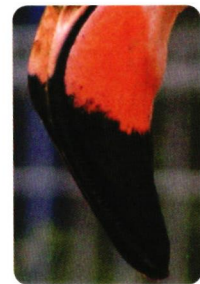
チリーフラミンゴは、ベニイロフラミンゴよりやや小さく、体の大きさは110cmぐらいあります。体はやや淡いピンク色をして、脚の真ん中の関節と指と水かきが赤い色をしています。くちばしの付け根は白色をしています。南アメリカの山地にある塩水湖の周辺に生息しています。



コフラミンゴは、フラミンゴの中で一番小さく、体の大きさは90cmぐらいしかありません。体は鮮やかなピンク色をしていて、くちばしは黒い色をしています。インド西北部とアフリカに生息しています。



フラミンゴは、自然では藻類やプランクトンなどを食べていますが、動物園ではこのようなものを与えるのはなかなか難しいです。そこで、これらの代わりにフラミンゴ用に特別に作られた固形飼料とオキアミ（釣りなどでよく使われるエビの仲間）を与えています。なぜ曲がったくちばしをしているか不思議なのですが、これはフラミンゴの食べ物と関係があります。長い首を折り曲げて、



くちばしを水の中に入れ、水の中の小さなえさを水ごと口の中に入れます。この時に「へ」の字のように曲がったくちばしがえさを食べるのに役立つのです。また、くちばしをよく見てもらうとわかるのですが、くちばしの縁はくしのようになっています。水中で舌を使って、水だけをくちばしの縁から押し出して、水の中の藻やプランクトンを濾して食べています。

また、片足で立っている姿がよく見られます。体は暖かい羽で覆われていますが、長い足には羽が生えていません。この長い足から体の熱が逃げてしまうので、片方の足を羽で覆われた体にくっつけて休んでいれば、体の熱が外に逃げにくいのです。このために、フラミンゴは、片足で立っていると言われています。

春から夏になると、フラミンゴはくちばしを使って土をかき寄せて盛り上げていきます。ちょうどバケツをひっくりかえたような形で、高さが30cmぐらいの巣を作ります。今年もフラミンゴがいくつかの巣を作りましたが、残念ながら産卵は見られませんでした。これらの巣に1個の卵を産み、（まれに2個があるそうです）雄雌交代で約1ヶ月、卵を温めます。子育ても雄雌共同で行い、ヒナは親からフラミンゴミルクと呼ばれる、食道の一部が袋状になっている「そのう」と呼ばれる部分で分泌された赤い液状のものを両親からもらい成長します。このミルクは哺乳類のミルクとは違い、大量のカロチン（親のえさにふくまれている）と少量の赤血球が含まれているので、赤い色をしています。フラミンゴのヒナのくちばしは親からえさをもらいやすいため、曲がっていません。2ヶ月ぐらいすると親のようなくちばしに変わるそうです。



ちょっと不思議な鳥、フラミンゴを動物公園に見に来てください。

足立 仁之 (Masayuki Adachi)

ウシのお話

哺乳類は手足の先に爪をもっています。その爪はヒトやサルのもつ平爪、ネコやイヌ・ネズミなどのもつかぎ爪、ウシやシカなどがもつ蹄（ひづめ）の3種に分けられます。

蹄をもつ動物は有蹄類（ゆうていりい）と呼ばれます。2か4本の蹄をもつ偶蹄類と1か3本の蹄をもつ奇蹄類に分類されます。前者はオーストラリア、南極以外の大陸に分布し、ウシ、カモシカ、シカ（トナカイなど）、ヤギ、ヒツジ、キリン、アンテロープ、ラクダ、ラマ、イノシシ、カバなど約180種生息しています。後者はユーラシア、アフリカ、南アメリカに分布し、ウマ、シマウマ、ロバ、バク、サイで16種生息しています。バクは前足が4本、後足が3本の蹄を持ちますが、前足の外側の蹄は小さく、他の3本で体重を支えています。偶蹄類の方が、砂漠、草原、森林、山岳など幅広い環境にすみ、種類数、個体数ともに奇蹄類をしのいでいます。

今回は典型的な偶蹄類のウシについてお話します。ウシはユーラシア、アフリカ、北アメリカに22種分布しています。バイソン2種、スイギュウ2種、ヤク、ガウル、バンテン、アノア、コープレイなど姿を見ただけでウシとわかります。ウシは頭の上に一对のツノをもっています。構造は頭の骨からツノの骨が突起し、それにかぶさるようにツノがくっついており、一生伸び続けます。



ウシ 左：ホルスタイン 右：ジャージー

ウシ類は多くの偶蹄類と同様に木の葉や草を食べ、大きな胃袋の中で、微生物による分解により、植物が

ら栄養をとります。当園には家畜のウシ2品種、（子ども動物園）家畜のアジアスイギュウ、家畜のヤク、アメリカバイソン（以上家畜の原種ゾーン）を飼育展示しています。



アジアスイギュウ



アジアスイギュウの頭骨

世界中で14億頭も飼われ、農業に使われたり、肉、乳、皮などに利用されている家畜ウシは野生ウシ（絶滅）から8000年前に西アジアで家畜化されたと考えられています。その後、ツノの短いものや長いもの、背中のコブのあるもの、ないもの、肉用、乳用など、多様な品種が作りだされました。

日本でウシが飼われ始めたのは5世紀ごろで、鋤（くわ）を引かせ、農地を耕したり、物を運んだりするのに使っていました。以後、自動車の普及する近代までウマと共に重要な労働力でした。これが今の和牛の基になりました。しかし、肉として一般的に食べられるようになるのは明治に入ってからです。



ヤク

家畜アジアスイギュウはインド、中国を中心に1億2千万頭飼われており、今でも重要な労働力です。野生アジアスイギュウはごく少数だけ生息しています。沖縄では家畜アジアスイギュウが1933年に台湾から移入され飼われてきましたが、最近は少なくなっていました。

家畜ヤクはヒマラヤの高地で荷物を運んだりする重要な家畜として今でも飼われています。



アメリカバイソン

アメリカバイソンは家畜とは関係ありませんが、北アメリカの代表的な動物です。6000万頭もいたアメリカバイソンは、生息地にたくさんの白人が入りはじめると開墾や乱獲により急激に減少し、1887年にはイエローストーンの200頭と飼育個体を合わせて541頭になってしまいました。少しして国をあげての保護活動が始まり、現在では6万頭にまで回復しました。

宝川 範久 (Nori-hisa Takaragawa)



サポーターズディ開催

平成20年度 サポーターズディ

今年度のサポーターズディは、第2回を梅雨の真最中の6月22日（日）と、第3回を夏休み明けの9月7日（日）に開催しました。

6月はあいにくの大雨にもかかわらず31名、9月はまだまだ残暑が厳しい中45名の熱心なサポーター会員とその家族の方々に参加いただきました。

昨年の第1回に好評でありました動物舎のバックヤードの見学を実施後、今年度は子ども動物園内のふれあいコーナーをサポーター会員貸切としました。いつもなら小さいなお子さんだけしか触れることのできないテンジクネズミや、高価な毛皮として名の知られているチンチラを、大人の会員はじめ家族で交替で抱き、ぬくもりを感じていただきました。直接飼育担当者からの説明を聴きながら大好きな動物を間近で見たり、その動物の部屋が見られたことに満足され、無事終了いたしました。昨年度に続き、いずれの回にも参加され



た熱心な会員の方もありました。

サポーター制度は、動物に関する知識と愛護の思想を普及のために市民の方々にご支援いただく制度です。お蔭様で今年も園内に動物説明板を設置することになりました。来年度もサポーターズディは2回開催を予定しておりますので、今後も皆様に支えていただき、制度の充実が図れればと考えております。

動物公園協会教育普及係



動物公園の植物…③③

The plants in the Zoological park

コナラ (*Quercus serrata*)

別名ホソウ、自然風の庭園景觀に欠かせない樹木で、市内の公園で数多く植栽されています。1本立ちでも植えますが、武者立ち、株立ち等は風情があり、優雅な木立となります。

動物公園では、従来からあるコナラを含めて1,660本あり、本公園でも一番多い樹木です。

落葉高木で、陽樹(太陽の明かりを好む)、萌芽力旺盛で、適潤な肥沃な土を好み、乾燥に耐える強い木です。高さ15m~20mになり、なかには30mに達するコナラもあります。分布は北海道から九州です。

落葉時期には、派手ではありませんが、葉が茶褐色になり、他の樹木の彩りの一員として存在感を表しています。実はどんぐりとして親しまれて子供たちの遊び道具の一つでした。昔から身近にあり、農村の生活に密着し人々に親しまれた樹木です。

用途は、建築・器具材、椎茸栽培の原木、薪炭の原料、落葉は堆肥として利用します。

動物公園では、毎年秋に実施している落葉プールの材料として、コナラの落葉を利用しています。



全 景



葉とどんぐり

染谷 正仁 (Masahito Someya)



飼育よもやま話

チンパンジー

当園では飼育係一人一人に決まった担当動物があります。担当は短いと1年、長い場合は10年位で担当替えになります。担当替えは毎年4~5月の間にあり、飼育係の半数以下の人が、それまでとは違った動物の担当になります。どんな動物でも担当替えになれば大変なのですが、特に大変な動物の一つとしてチンパンジーがあげられます。

彼らは5~6頭から100頭位の群れを作りテリトリー内を、その中の気の合った小グループに別れて行動しています。彼らの社会は、リーダーを頂点とする順位のはっきりした群れで形成されています。

順位は強さだけではなく、政治的なものや血縁まで関係しています。動物園で飼育されているチンパンジーの場合は、飼育係も含めて順位が形成されています。ですから担当替えでチンパンジーの担当になった場合、彼らからして見れば外から新しいヤツが群れに入ってきたことになり、最下位からのスタートでなかなか受け入れてくれないことは勿論、ツバや口に含んだ水をかけられたり、威嚇されたりと本当に大変です。

私がチンパンジーの担当になった時もそうでした。毎日獣舎にある鉄格子の間を利用してミルクとヨーグルトを外から与えるのですが、ミルクを入れた哺乳瓶は飲まずにひっくり返され、ヨーグルトを入れたスプーンは取られ、返してもらえない。やっとミルクを飲んでもらえるようになって、ミルクが少しでも熱かったり、冷めていたりすると大激怒です。また夕方寝室に収容する時はなかなか入ってもらえなかったりと……それ以外にも沢山ありますが、とにかく最初の1ヶ月は仕事に行くのが憂鬱になるほどでした。しかし2ヶ月、3ヶ月と日を重ねるうちに少しずつ信頼されるようになりました。完全に信頼され、立場が逆転するまでには3年位はかかったと思います。

まだまだ書き尽くせませんが、今ではとても可愛いチンパンジー達です。 中村 智行 (Tomoyuki Nakamura)



ミルクをもらっています。



動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'08年7月1日~'08年9月30日



7月2日

トナカイ(雌)、繁殖

エジプトハゲワシ、ダチョウの卵割り実施

7月3日

クロミミマーモセット(6月30日繁殖:仔)、死亡

7月4日

ショウガラゴ(雄)、死亡(老衰)

7月5日

ブタ、マーボー(雄)とチャオス(雌)を繁殖のため同居させる

7月6日

ケープペンギン(No.52)、やせているため捕獲し強制給餌

ケープペンギン(No.52)、死亡

カラフトフクロウ(雌)、死亡



7月7日

フクロテナガザル、放飼場に消防ホースのハンモックを設置

ニシローランドゴリラ(モンタ)、寝室の自動扉戸袋のステン

レス板をはがす モモコの寝室に収容

ケープペンギン(No.53)、やせてきているため捕獲し強制給餌

7月9日

マンドリル(雌)、搬入

オグロブレイリードッグ(展示:仔)、外に8頭、巢に1頭確認

エミウ、離体重測定 No.45(4.4kg)、No.46(4.6kg)

千葉聖心高等学校(8名)職場体験実習(7月10日まで)

子ども動物園で飼育しているウシ、関東農政事務所による耳標

の確認

7月11日

ショウガラゴ、出産確認(1頭)

アミメキリン、夕方、室内で声を出していた

7月13日

オグロブレイリードッグ(No.59)、2羽で争っていたスズメの1

羽を捕らえ、少し食べた

7月14日

フサオマキサル(雄)、雌に対して攻撃的で、雌は屋内で床から

動けず

レッサーパンダ、体重測定 チィチィ(7,050g)、仔2頭(432g、

422g)

キングペンギン、ケープペンギン、マラリア予防

7月15日

ショウガラゴ(仔)、給餌時に仔が巣箱の上に置き去りにされた

ので巣箱に戻す

7月16日

ヒロハシサギ産卵(3個)

緑町小学校へ出張授業実施

7月17日

レッサーパンダ(風太)、収容時、風美のいた場所で20分ほど

マーキング等を行い落ち着かない

7月18日

アジアゾウ(雄)、側頭腺より分泌液が出る

7月19日

ワオキツネザル、母親が仔を橋に置いたまま夕方入室する 仔

がいないので探し回る 担当者が仔をキーパー通路側扉より入

れてやると背中に乗せ落ち着く

7月22日

レッサーパンダ、体重測定 仔2頭(584g、524g)

7月23日

サマースクール(7月25日まで)

オオカンガルー(雌)1頭、死亡(心嚢水腫)

7月27日

レッサーパンダ、フィラリア予防薬投与

7月28日

コツメカワウソ(雄雌)搬入、シロガオマーモセット(雄雌)、

オグロマーモセット(雄2、雌2)、オグロブレイリードッグ(6

頭)、ヘビクイワシ(1羽)、搬出

7月29日

ヒロハシサギ(1羽)、孵化

7月30日

ヒロハシサギ(雛)、人工育雛3回給餌

7月31日

ヒロハシサギ(1羽)、孵化 7月30日にひびが入ったがその後

進まないで少しずつむいてやる 29日孵化個体、人工育雛4

回給餌 木更津高等学校、校外学習

8月2日

フンボルトペンギン、5羽が換羽中のため、アジをいつもの半

分くらいしか食べない

8月3日

レッサーパンダ、体重測定 第5仔(870g)、第6仔(770g)

多摩美術大学学生(1名)、本日より学芸員実習開始

8月4日

子ども動物園飼育センターにてカブトムシの展示を開始

8月5日

レッサーパンダ、第5仔、6仔とも雄と判定

8月7日

アルダブラゾウガメ(雄1)、長野市茶臼山動物園へ貸し出し

8月9日

キングペンギン(1羽)、孵化 自力で割らないので強制的に孵

化させる

8月11日

コツメカワウソ(雄雌)、検疫明け

キングペンギン(雛)、人工育雛3回給餌

8月13日

ムフロン(雌1)、死亡

8月14日

キングペンギン(雛)、死亡

8月18日

レッサーパンダ、体重測定、第5仔(1,204g)、第6仔(1,086g)

8月20日

麻布大学学生(1名)、獣医実習、北里大学学生(1名)、学芸員

実習、本日より開始

8月23日

レッサーパンダ、体重測定、第5仔(1,324g)、第6仔(1,192g)

Zooキッズデー 実施(子ども動物園対応)

8月24日

マレーバク(雄)、横になっていることが多い



8月26日

フタユビナメケモノ(1頭)、繁殖 14:00頃、木の下に落ちて

いる仔を発見する 人工保育とする 体重513.3g 最初、犬猫

用のミルクを与えるが、ヤギ用に変更する

8月27日

フタユビナメケモノ(仔)、人工保育(一日5回哺乳)

8月29日

ヒロハシサギ(1羽)、死亡

8月30日

アルダブラゾウガメ、ケツメリクガメの甲長を測定する

9月1日

レッサーパンダ、体重測定、第5仔(1,480g)、第6仔(1,320g)

北里大学学生(1名)、日本生命科学大学(1名)、琉球大学(1

名)、学芸員実習、本日より開始

9月2日

草野小学校へ出張授業実施

エミウ、離体重測定、2月16日生まれ(9.2kg)、2月22日生

まれ(9.6kg)

9月7日

フタユビナメケモノ(仔)、14:00の授乳後、担当者の指をしゃ

ぶり何か食べたそうなのでりんごのスティック、牛乳パン、

すりりんご、きゅうりなどを与えてみる りんごスティックを

かじるが食べない 17:00、20:00の授乳時にリンゴスティ

ックを少し食べる

サポーターズデイ 開催

9月8日

レッサーパンダ、体重測定 第5仔(1,650g)、第6仔(1,412g)

グレイシーマウマ(雄)、左前足のひざ腫れている(消炎剤を与

える)

アジアゾウ(雄)、側頭腺より分泌液が出る

9月9日

カブトムシ展示終了

9月11日

グレイシーマウマ(雄)、左前足を少しつけるようになる

9月13日

レッサーパンダ(仔)、床を歩き回っていることが多い

木更津高等学校、校外学習

9月15日

レッサーパンダ、体重測定、第5仔(1,792g)、第6仔(1,580g)

マレーバク(雄:ヤマト)、死亡

9月16日

グレイシーマウマ(雄)、跛行はだいぶ良くなっているが室内で

は横になっていることが多い

日本女子大学学生、本日より学芸員実習開始

9月17日

西生浜小学校へ出張授業実施

9月18日

ちば愛犬学園、職場見学実施

9月21日

ワンポイントウォッチング(ムツオピアルマジロ)開催

9月23日

マンドリル(雌)、検疫明け

9月24日

オオカンガルー(2頭)、搬出

9月26日

ホンダザル(雌2頭)、収容時に入らないので追って入れる

9月28日

レッサーパンダ、体重測定、第5仔(2,084g)、第6仔(1,830g)

9月29日

エリマキキツネザル(雌1)、搬入

浅野 洋之(Hiroyuki Asano)

編集後記

園内を来園者の方々が落ち葉を踏みしめながら歩く音と木枯らしで冬の訪れが感じられます。「寒いのはちょっと苦手」と言う方は、ゆっくりと動物科学館の中の動物を眺め、クリスマス、お正月と子どもたちの楽しい季節にちなんだクラフトで楽しんでいただければと思います。屋外では、トナカイなど寒さの好きな動物たちの出番です。この時季ならではのバードウォッチングも2月には開催します。ぜひ冬の動物公園へもお出掛け下さい。

どうぶつこうえんニュース編集委員



オシドリ

動物取扱業者標識	
①氏名または名称	千葉市
②事業所の名称	千葉市動物公園
③事業所の所在地	千葉市若葉区源町280
④動物取扱業の種別	展 示
⑤登 録 番 号	第50015号
⑥登 録 年 月 日	平成19年7月30日
⑦有効期間の末日	平成24年7月29日
⑧動物取扱責任者	飼育課長 小林 正典



サポーター会員募集

(財)千葉市動物公園協会では、動物に関する知識と動物愛護の精神を普及することを目的に「サポーター会員」を募集いたします。

年会費（入会日～翌年入会月末） 個人会員 **1,000**円（1口）
法人会員 **10,000**円（1口）

オリジナルグッズプレゼント♪ サポーターズデイに無料ご招待！

お問い合わせは ☎**043-252-1111**

Information

平成20年12月・平成21年1月・2月の
催 し 物 一 覧

- ★ 12月 7 日⑩ ワンポイントウォッチング（カピバラ）
- ★ 12月 13 日㊥ Zooキッズデー（事前申し込み制）
- ★ 12月 21 日⑩ クリスマスシアター
- ★ 1 月 2 日㊤・3 日㊥ お年玉プレゼント（先着200名のお子様）
- ★ 2 月 1 日⑩ バードウォッチング（事前申し込み制）
- ★ 2 月 14 日㊥ バレンタインデーミニ音楽会

法人サポーター 会 員（順不同）

(株)動物公園協力会
(株)和光物産商会
(有)カンダ事務機
(株)新星医薬商事
千葉商工会議所
(財)千葉市国際交流協会
ジェノスグループ(株)
(株)ニッセイアド
千葉県米穀(株)
大西総業(株)
(株)さわらび
利根コカコーラボトリング(株)
千葉都市モノレール(株)
関東フローズン(株)

どうぶつこうえんニュース第70号
平成20年12月 1 日発行

編集
発行

千葉市動物公園 <http://www.city.chiba.jp/zoo/>
(財)千葉市動物公園協会 <http://www.chibazoo.net/> 【総合案内】 ☎ 043-252-1111
〒264-0037 千葉市若葉区源町280番地 280 Minamoto-cho Wakabaku Chiba-City Japan.